



## 教会報

### アルフレド・セゴビア主任司祭、ご復活後に山口教会へ

アルフレド・セゴビア神父様は 8 年余の六甲教会の主任司祭の務めを終えられ、次の任地山口教会へ赴かれます。アルフレド神父様の後任には東京麹町教会から英隆一郎（はなふさりゅういちろう）神父様がいらっしゃいます。お二人の交代の時期は 4 月の半ば、ご復活のミサが終わった頃になる予定です。アルフレド神父様からお別れのご挨拶を頂きました。また、前評議会議長の西田さんと典礼部コーディネーターの中西さんからそれぞれ惜別のご挨拶を頂きましたので合わせてご紹介致します。

#### 六甲教会の信徒の皆さん

思い起こせば、2014年4月初め、まだ四旬節の復活祭まで 2 週間余り。主任も助任も同時に交代することになって、復活祭を待たずに東京の聖イグナチオ教会から六甲に来ました。それから、8 年が経ちました。たくさんの人と出会って、たくさんのことを学んで、200 人以上の人を見送って、コロナ感染症で一緒に悩んで、波乱万丈とまで言えないにしても、いろんなことがあった 8 年間だったと思います。



今は旅立ちの時です。皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

新しい所で、新しい共同体と、新しい時代に生きていくこととなります。「いつでも、どこにでも、すぐに行ける」ことは聖イグナチオの会員に対する望みでした。当時と状況が違いますが、それに近い心が求められます。

皆さんと過ごした 8 年間で心に留めながら新任地に向かいます。教皇様の言葉を借りて、「私のために祈ってください」とお願いします。私も六甲教会の皆さんのために祈りつつ。

ありがとうございました。

Segovia Alfredo



## アルフレド神父さま ありがとうございます

※2019 年年末に前任の鍵山先生（私が六甲学院在籍中の恩師である為、やはり私にとっては今でも「先生」なのです）から、お電話があり、「アルフレド神父様から、評議会の副議長にと指名があったので受けて貰えないか」との事でした。恩師である鍵山先生からのご連絡であった為、お断わりすることも出来ず、お受け致しました。教会には真面目に行っていなかった私の神父様に対する第一印象は「鍵山先生を通して連絡するなんてずるいな」と言うのが正直な思いでした。

2020 年 3 月に、本来は 4 月から副議長を拝命するはずでしたが、コロナ感染の第 1 波が悪化する中、今後の教会運営と感染対策を話し合う為に、議長団の集まりが招集されました。当時、まだ世の中は今ほどコロナ感染に対して怖がっておらず、大阪大司教区からは復活祭からは通常通り御ミサを行うようにとのことでした。そんな中、アルフレド神父様は、復活祭の御ミサも中止になる可能性があり、対応出来るように準備しなければならないことを私達議長団のメンバーにアナウンスされておりました。そして 3 月末ギリギリになり、神父様をご心配されていた通りに復活祭の御ミサも中止するように大阪大司教区より通達がありました。その後、神父様は的確に新型コロナの感染状況に応じて、御ミサの再開、またその回数や参加人数制限の緩和を行って下さいました。これまでに誰も経験の無い新規感染症流行のため、正解が無い中、信徒の皆様におかれましてはそれぞれに賛否のご意見はあったかと思いますが、議長として拝見しておりました神父様のこの 2 年間のリーダーシップはとても頼もしく感じ、感謝しております。教会の様々な活動の中でも、とにかく信徒の皆様がなんとか週に 1 回御ミサに与ることが出来る様にしたいと、いつも心を砕かれていたことが印象的でした。今後、新型コロナ感染の終息と共に、コロナ禍以前の姿に戻していくことの方がこれまで以上に大変だと思います。神父様がそのリーダーシップで次の転任先でも、信徒の皆様を導かれる事を信じて疑いません。

(2021 年度評議会議長 西田 仁)



※「神よ、すべてを越えるあなたの名をたたえ、あなたに感謝をささげることはすばらしい」

(詩編 92・2、典礼聖歌 143 番より)

アルフレド神父様をご復活後に山口教会に移られることになりました。

「コンクラーベするで〜。枢機卿のみなさんはバチカンに集まってや〜」という通知を受けたホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿が（おそらくは）スーツケースひとつでローマに飛び、選挙後は白い服に着替えて教皇フランシスコとなり、そのままブエノス・アイレスに帰っておられないことを思うと気が遠くなります。その教皇様のかつての教え子であるアルフレド神父様も、地球の裏側の国で長上の命ずるままに異動し、数年ごとに新たな環境で宣教・司牧に取り組んでおられます。そのご苦勞を考えると、神に仕えることの厳しさと美しさに驚嘆の念を覚えます。

特にこの 2 年余りは新型コロナウイルス感染症のため、教会活動に大きな制約がありました。そんな中でも、教区レベルで公開ミサが中止されたときを除き、さまざまな工夫をしてミサを続けてくださったことには、本当に感謝しかありません。聖堂の人数制限のため、主日や降誕祭にはミサの回数を増やしていただきました。神父様方のご負担は相当なものだと思います。コロナ禍で私たちは霊的にも萎縮しがちになっていますが、アルフレド神父様は守りに入ることがありませんでした。典礼関係では聖堂にスクリーンを設置され、ミサでの案内やお知らせに大きな力を発揮しています（先唱当番は以前より緊張するようになりましたが…）。

Memento mori（死を想え）ということばがあります。自分の葬儀をアルフレド神父様に司式していただくとしたら、その時に配るカードに書きたいと思ったのが小文の表題とした詩編の一節です。

アルフレド神父様、8 年間ありがとうございます。神父様が作られる毎年の復活ろうそくが楽しみでした。山口教会にもろうそくを見にいきます。どうぞお元気で！

(典礼部コーディネーター 中西 裕樹)

## 2021 年度第 5 回小教区評議会議事録（要約）

日 時 2022 年 3 月 6 日 13:00～14:30 場所 第 1～第 2 会議室 （以下敬称略）  
 出席者 アルフレド主任司祭 中村神父 西田議長 三垣・宗行両副議長 大上・増田両書記  
 井川地区会代表、財務部、社会活動部、施設管理部、広報部、婦人会、各コーディネーター

### 【協議事項】

1. 第 16 回代表司教会議（シノドス）に向けた意見聴取の進行状況  
 前回の評議会で提案された小グループの分かち合いと意見集約は、約半数のグループが完了、あとは進行中。3 月 31 日に締め切りとする。
2. ことしの平和旬間への取り組み  
 コロナのため昨年一昨年は冊子を配布して個人的な祈りを中心にした。ことしは講演会なども考えられるがコロナや社会情勢によって判断を左右される。準備委員（三垣、蛭田、詫）と宣教部の松平で素案を練ることになった。次回 5 月の評議会に持ち越す。

### 【報告事項】

1. 2022 年度の小教区評議会人事と行事日程  
 陣容がきまり、役員一覧・行事日程表も 3 月中に配布する。
2. 聖週間のスケジュール  
 聖木曜日（4 月 14 日）聖金曜日（4 月 15 日）聖土曜日（復活徹夜祭）（4 月 16 日）のミサは 17:00 と 19:00 との 2 回ずつ行う。
3. 新旧主任司祭の歓送迎会などは自粛の方向であるが、なんらかのセレモニーを考える。

次回評議会 2022 年第 1 回小教区評議会 5 月 8 日（日）13:00～ 第 1・第 2 会議室

### 4 月主日ミサのグループ別時間割（10:00, 11:30）

その他の時間（土曜日 18 時、日曜日 7 時半）は地区を問わず与れます。

尚、コロナ感染状況によりミサの時間については教会の最新の情報にご注意下さい

3 日（日）	10:00	第 1 グループ	24 日（日）	10:00	第 2 グループ
	11:30	第 2 グループ		11:30	第 1 グループ
10 日（日）	10:00	第 2 グループ	第 1 グループ	灘北 1、北・三田、灘北 2・ 阪神、灘南・神戸西	
	11:30	第 1 グループ			
17 日（日）	10:00	第 1 グループ	第 2 グループ	灘西・中央、東灘北 1、 東灘北 2・芦屋、東灘南	
	11:30	第 2 グループ			

聖週間を迎える これからのミサ（四旬節から聖週間まで）予定

- 4 月 3 日（日）四旬節第 5 主日  
 4 月 10 日（日）受難の主日（枝の主日） 主のエルサレム入城 聖週間に入る  
 4 月 14 日（木）聖木曜日 主の晩さん ごミサ 17:00（第 2）、19:00（第 1）  
 4 月 15 日（金）聖金曜日 主の受難 ごミサ 17:00（第 1）、19:00（第 2）  
 4 月 16 日（土）復活の聖なる徹夜祭 ごミサ 17:00（第 2）、19:00（第 1）  
 4 月 17 日（日）復活の主日 （第 1、第 2 はグループ名）

# 趣味百景

## 山歩き 本下 稔



私が山に出会ったのは高校2年の夏。3年の夏休みは山歩きに力を注ぎ、受験勉強は登山の次になってしまっていた。

「山高くして尊きに非ず」と言うが、時間に余裕があり責任も軽い間はご多分に漏れず山行の度に標高と人気の高い山を目指していた。其の内に仕事や日常生活が忙しくなり、好みの山を繰り返し登攀するようになった。



大雪渓と花畑の白馬岳、多様な自然の立山、本格的な穂高岳などがその山々。初夏の残雪を頂く山容や新緑、盛夏の木陰や花畑、秋の紅葉樹や草紅葉、四季を通じた夕焼け朝焼けの雲海やモルゲンロートや満天の星など、同じ山でも登る度に、大切な人に伝え共有したくなる新しい発見や感動が生まれる。

私の山歩きの多くは能力相応の山の自由気儘な単独行動だった。それ故、体力に自信があった時期は一汗かけば徐々に計画行程以上に負荷を増していくのが私の山行形態になっていた。負荷が或る領域に達すると体の全てが軽くなり、行動力や判断力や想像力などの様々な機能が向上する驚くべき現象を何度か体験した。良く似た現象は、日常の仕事の場に於いても業務や経営や研究などに極度に高い負荷が作用した瞬間に発生することがある。是までの山歩きや仕事で過度の苦痛や辛酸を覚えることなく

過ごせたのは、このような体験の賜物なのか？ 全て忘れてしまったからなのか？



近頃は、梅池高原や八方尾根から白馬岳を、室堂から立山三山や剣岳を、そして「穂高よさらば」を口遊みながら涸沢から穂高岳を眺めるのが精一杯。六甲山でも、安心と安全のため大勢が歩く日と時間とコースを選んで歩くようになってしまった。まあ、是ぐらいなら、是のままで良い。

(写真右上；立山登山、左下；Matterhorn をのぞむ)

## 今月の聖人 聖ベルナデッタ

ルルドの奇跡の泉で名だかい聖ベルナデッタが没したのが 1879年の4月16日です。フランス ピレネー山脈のふもとの小さな村ルルドで生まれ育ったベルナデッタは貧窮のなか、自らも喘息に苦しみながらよく働いていました。14歳のとき聖母マリアが彼女の目の前に繰り返し現れるようになります。ベルナデッタは誓願を立て修道院で看護師の役を務めていましたが 35歳で亡くなります。彼女の遺体はルルドの聖水のおかげなのか腐敗もせずに現在でも安置されています。ルルドの水は奇跡を起こす聖水として、巡礼者や病を抱えた人々、観光客が訪れるようになりました。(詫 洋一 記)



## ウクライナ危機支援

日本のカトリック教会では、カリタスジャパンが、緊急募金の受付を開始しました。

募金受付口座

郵便振替:00170-5-95979

加入者名:宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン

※ 郵便振替用紙の記入欄に「ウクライナ危機支援」と明記して下さい。

※※ インターネット振込・ゆうちょ銀行以外からの振込の場合、「ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)支店 当座 0095979」宛てとなります。お名前の後に「6273」(ウクライナ危機人道支援の意向番号)と記入して下さい。

### 【墓地っ子便り】

§ 穏やかなお天気に恵まれた3月13日(日)、10時ミサ後に、9名の方の共同墓地への納骨が行われました。9家族が長峰霊園にお集まりになったのち、アルフレド神父さま司式による「納骨式」が約20名のご家族の参加のもと、しめやかに行われました。

新型コロナウイルス感染症対策蔓延防止等重点措置実施地域に指定中であり、全国的かつ兵庫県内の感染者数もなかなか減少しない状況のため、今回も残念ながら、従来のような既に共同墓地へ納骨された方々の墓参、神父様による個人墓地の祝別という形ではなく、今回共同墓地への納骨を希望されたご家族以外の方には参加の自粛をお願いして実施しました。次回「秋の墓参」は例年通りの形で実施することができますよう、事態が改善されていることを願わずにはいられません。

§ 六甲教会墓地委員会から個人墓地をご使用頂いている方へお願いがございます。いつも委員会の活動にご理解とご協力ありがとうございます。ご自身での整備・清掃が可能な方は、引き続きこまめなお手入れをお願い致します。なお遠隔地の為など、ご自身でのお手入れが困難な場合は、六甲教会・墓地委員会までご連絡ください。よろしく願いいたします。

六甲教会墓地委員会

### 六甲教会 今月の庭

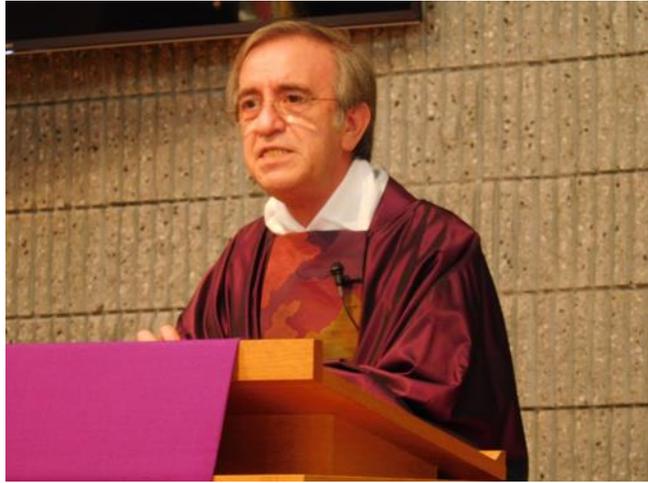


(編集部撮影)





👉 2019年4月17日聖香油ミサ当日、大阪カテドラルにて叙階永年表彰式が行われ、アルフレド主任司祭も25年表彰「銀祝」を受けられました。(満25年を迎えたのは同年9月) (再掲)



## 教会のご近所訪問

### 陶磁器 石豊堂 (せきほうどう)

阪急六甲から市バス2系統で篠原本町2丁目下車、すこし西へ進むと4軒ならんだお店のひとつが石豊堂さんです。シャッターが閉まっている日が多く、お店が開くのは金、土、日曜日の午後からだけという、なんだかミステリアスなお店です。でもガラス戸を開けて中に入ると、陶磁器を中心とした骨董類が所せましと並んでいます。お店の広さは6坪(20㎡)ほど。ご主人・石堂重本さん(68才)が、長年趣味で集めた品物を適当な値段で販売されているのです。陶磁器、茶道具、民芸食器などが中心ですが中には中国明時代の絵皿、李朝の壺、江戸期の古伊万里など値打ち物がリーズナブルな値札で並んでいます。ご夫婦二人でお店を切り盛り、ということですが、平日は西脇市のアトリエに引っ込み、



絵を描いたり畑を耕したりの優雅な生活。品物は、まあ売ればうれしいといった程度の鷹揚なお店。一見入りにくそうですが、色とりどりの陶磁器に囲まれた店内に入れば、ひととき心が癒されます。店の外には一つ100円とか50円の掘り出し物がかごに入っています。これらを探し出すのもまた楽しみ。近くをお通りの節はぜひお立ち寄りを…。

(灘区篠原本町 3-6-7 080-6126-0135)

👉店主の石堂重本さん

## 戦塵のさなかに

朝早く教会のゲートを開ける時に、桜の梢のはるか彼方の空を見上げると、決まって際立って輝やく明けの明星を見つける。どうして今まで気付かなかったのか、不思議に思うほど燦然と輝いている。キリスト者たちは永く、聖母マリアの心と働きとを思い描いて仰ぎ見、たえず争鬪と戦乱に明け暮れる人間界に平和の恵みを祈り求めたという。このところ連日のように、テレビも新聞も破壊と殺戮が続くウクライナの恐ろしい状況を伝えている。ロシアの理不尽な侵略と、先進兵器による一方的な攻撃を非難する声も多く聞こえる。幼子を抱え年寄りを労わりながら、徒歩で辛うじて隣国に逃れ出る何十万人とも知れぬ人々の映像に心が痛む。

戦禍が遠く及ばない安全な処で、戦争の現状を批判し分析することはたやすい。しかし国運を賭けて上官の命令のもと、彼我に別れて殺し合う若い兵隊たちの悲惨さや恐怖は、敵も味方も変わらぬ悲劇だ。それにつけても私が小学生になる前に、体験した戦争の情景を思い出す。かつてと今とを比べて、戦争は何十倍も悲惨さを増し加えた。しかしオサナ心に焼き付けられたものは、今も鮮明である。平和にすっかり慣れた日本に、戦争のナマの体験を持っている人の数は少なくなった。しかし幸いに巻き込まれずに済んできたが、世界の何処かで何時も戦争が行われ、無差別の殺戮が続けられた。映画やテレビの映像では英雄や豪傑が華々しく活躍するが、全くの純然たるツクリモノである。いつも戦争は悲惨のキワミ、狂気の沙汰、意味のない破壊、憎悪と差別の所産であることに変わりがない。

人々は灯火管制の下におびえ慄きながら、また度々の停電に耐え石油ランプの暗く臭い火影に煩わされながら、息をひそめて生活していた。日本が制空権を奪われて以来、B29は軍需工場ばかりか市街地を狙って焼

夷弾をまき散らし、多くの人々は逃げるすべもなく焼け死んだ。私の家のすぐ隣りの防空壕が直撃をくらって大人4人が殺され、二人の子供がいきなり孤児となった。またグラマンは空気を切り裂く低空飛行で機銃掃射を浴びせかけ、その標的から逃れるすべはなかった。しかしながら空襲警報が発令されない時、大真面目でバケツリレーによる防火訓練が行われ、女性群はモンペ姿で参加していた。広島に特殊爆弾が落とされた後のことだが、母は長兄の黒ずくめの格好を見て、「これなら、大丈夫だ」と太鼓判を押したのを思い出す。巷では噂やデマが飛び交っていたが、正しい情報を受ける道が全く閉ざされ、ラジオはいつも敵艦や敵機の甚大な撃滅を語り、輝かしい戦果をがなり立てるばかり。しかし戦争中の生命の危なさや窮乏は言わずもがな、戦後の食糧難の厳しさは今も骨身に染みている。破壊し尽くされた焦土からの復興は長い長い道のりを要し、あるものは復元や修復の可能性すら全く失われ、ただ喪失・焼亡の悲哀が残る。

私たちが今なにか出来ることはないのか。口を極めてプーチンさんを罵り、彼の残虐性を糾弾することか。志願兵として名乗り出ることか。ウクライナからの難民を受け入れ、支援の募金に応じるのか。敵国を敵視し蹂躪してでも、自国の利害や安全には極度に敏感な私たち。対人関係のもつれに、ともすれば相手を嫌悪し否定し排撃する私たち。地球上の平和・共住の恵みを、暁の星・マリアに祈ろうではないか。「イエスの母マリアよ、明けの明星であるマリアよ、互いに赦し合い相手を思いやる神の恵みが私たちに与えられますように。イノチがいつも輝き、独りよがりや憎しみの闇が打ち払われますように。」 合掌



## 【2022年4月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎灘北1、北・三田	
3	4	5	6	7	8	9
四旬節第5主日					十字架の道行き 10:00 ◎灘北2、阪神	教会学校 入学式・始業式
10	11	12	13	14	15	16
受難の主日			受難の水曜日 聖香油ミサ 11:00	聖木曜日 主の晩餐の夕べのミサ 17:00 19:00	聖金曜日 主の受難 17:00 19:00 ◎灘南・神戸西	復活徹夜祭 17:00 19:00
17	18	19	20	21	22	23
復活の主日 7:30 10:00 11:30					◎灘西・中央	
24	25	26	27	28	29	30
復活節第2主日 初聖体・祝福式					教会受付休み	◎東灘北1 (10:00～)

◎は掃除当番地区です。

### 【編集後記】

◎今月号から教会報は原則として詫 洋一、大上尚子、三垣恭子の三人が交代で制作します。信徒の皆さまには温かくお見守りいただければ幸いです。

<p>次回5月号の発行は4月30日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。 あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部 <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	<p><b>六甲カトリック教会</b> 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 Eメール <a href="mailto:renraku@rokko-catholic.jp">renraku@rokko-catholic.jp</a> 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部</p>
--	---